

2026年度 入試問題分析シート

北海道大学

前期日程

科目	化学
----	----

総括	試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	満点(配点)	数学重点: 100点(50点×2) 物化生重点: 150点(必100点、他50点) 総合科学/学部別入試: 150点(75点×2)	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

＜総論＞ 昨年同様、高校教科書の内容を中心とする、標準的な難易度の問題が中心であった。2024年度以前は全体の分量が多すぎて実力を発揮しづらい入試が目立ったが、それと比べてこの2年間は解きやすく、難易度・分量ともに無理のない、実力を発揮しやすい入試であった。今後もこのような傾向が続くことが望まれる。 ＜特記事項・トピックス＞ 時間をかけずに解ける問題が多かったため、昨年度よりも解きやすくなったような印象を受ける。例年、時間のかかる大問とわからない大問が混在しており、今年度であればⅠⅠ、ⅡⅠⅡ、ⅢⅠなどは、あまり時間のかからない問題であった。また、大問の形式をとっていても個々の問題は独立している場合が多く、難しそうに見える問題の間に解きやすい問題が入っている場合もある。先に全体を見渡して解きやすい問題を短時間で解いてしまい、次に時間のかかる問題に取り組む、という解き方も可能である。解く順序を工夫するだけでも、得点に大きな差が出る可能性がある。 ＜合格への学習対策＞ 難問が目立つ年度もあるが、そのような問題は正答率が低くて差がつかないので、結局はその他の標準レベルの問題がどれだけ解けるかで合否が決まると考えてよい。また、分量が多めなので、時間不足で解けない問題があっても構わない。年度ごとに变化する難易度に振り回されず、教科書を中心とする基本的な内容を正確に理解し、標準～やや難レベルの問題が短時間で解けるよう学習しておくといよい。
--

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
ⅠⅠ	記述 選択	化学基礎 化学	無機化学 酸化還元 合成高分子 溶解度積	問7は溶解度積を利用して沈殿が生成する条件に関する計算を行うが、よく出題される形式であり、慣れているかどうかで差がつく。その他の設問は、高校教科書に書かれている基本的な内容が中心であり、短時間で解答できる。	やや易
ⅠⅡ	記述 選択	化学基礎 化学	化学平衡 反応速度 無機化学 熱化学 電気分解	問4(2)では(1)の反応について、 NH_3 1molあたりのエンタルピー変化を正確に計算する必要がある。問4(4)では(2)(3)の値を利用する。問5(2)では問題文の条件をもとに見慣れないイオン反応式を書き、(3)ではその反応式を利用して計算する。	やや難
ⅡⅠ	記述 選択	化学	結晶	結晶に関する頻出問題が中心であった。問1(2)イオン半径比、(4)密度、問2(2)充填率なども頻出の計算問題であり、慣れているれば短時間で処理できる。	標準
ⅡⅡ	記述 選択	化学	無機化学	計算問題が無く、取り組みやすかった。問2、問3(1)の反応式や、問4(3)の化学式などで差がつくと思われる。	標準
ⅢⅠ	記述 選択	化学	有機化学	問1～問3は取り組みやすい問題であり、確実に得点したい。問4は問題文に与えられた配向性の条件に注意して反応を考える。	やや易
ⅢⅡ	記述 選択	化学	糖類 核酸 合成高分子	問3の正誤問題は、多糖類に関する正確な知識が必要である。問4、問6の計算問題は、類題で練習して解き方を正確に身につけていれば解答できるが、慣れていないと難しい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。